

チルドレンファーストの社会の実現に向けた子供政策強化の方針2025（概要版）

「子供政策強化の方針2025」の位置づけ

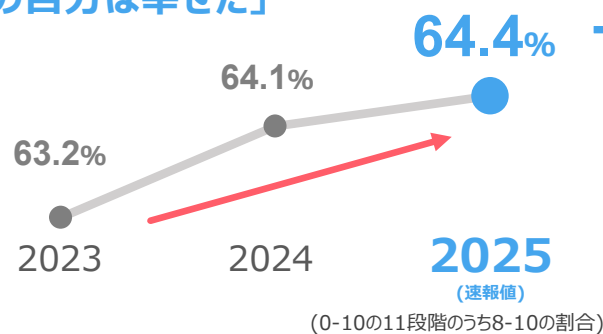
- 子供を取り巻く様々なデータや子供の声を整理しながら、**子供政策の課題と今後の政策強化**の方向を示すもの
- 本方針を基に、子供政策の更なる加速と新たな展開につなげるとともに、**年度内を目途に**、その内容を反映した「**こども未来アクション2026（仮称）**」を策定

社会環境が変化中での子供の「今」

子供の幸福度

全体的に東京の子供は、「今の自分は幸せだ」について肯定的に評価している割合が高いが、**学年が上がるにつれて低下傾向**

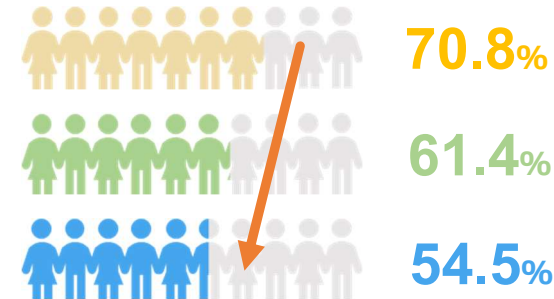
「今の自分は幸せだ」



小学生
(小3・小5)

中学生
(中2)

高校生
(17歳)



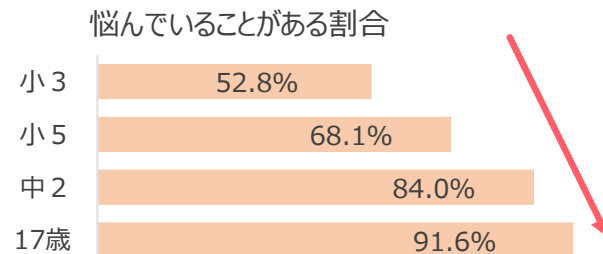
(いずれも、0-10の11段階のうち8-10の割合)

(資料) 東京都子供政策連携室「とうきょうこども アンケート」2025年調査の速報値を基に作成

子供の悩み

学年が上がるにつれて
悩みを抱える割合は高い

「あなたは今、悩んでいることはありますか」



(資料) 東京都子供政策連携室「とうきょうこども アンケート」2025年調査の速報値を基に作成

コラム

ユニセフ「子供の幸福度調査」～日本の子供のウェルビーイング～

- ・世界36か国の「子どもの幸福度」について、**日本の総合順位は、14位**
- ・分野ごとの指標では、「**精神的幸福度**」は、前回より**5つ順位を上げたものの、32位**

<総合順位>

		(前回順位)
1位	オランダ	← 1位
2位	デンマーク	← 2位
3位	フランス	↑ 7位
...		
13位	スロベニア	↓ 9位
14位	日本	↑ 20位
15位	リトアニア	↑ 33位
...		

分野ごとの指標

身体的健康 : 1位 (前回 1位)

スキル : 12位 (前回 27位)

精神的幸福度 : 32位 (前回 37位)

「生活満足度」は大幅に改善 ↑

「自殺率」は大きく悪化 ↓

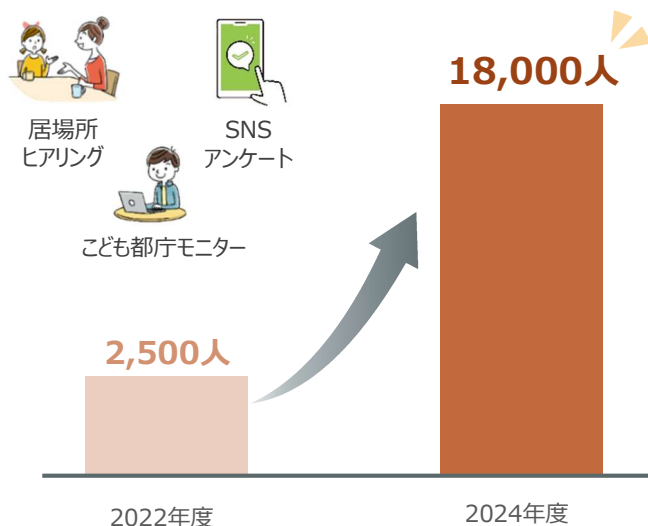
日本は自殺率が最も大きく上昇した国の一つ

【2025年 5月公表】

子供の声を聴き、政策へ反映する仕組みが、都庁内に「浸透」

✓ 多様な手法で子供の声をヒアリング

＜子供の意見を聴いた数＞



✓ 子供が都政にダイレクトに参画できる先駆的取組を実施

中高生 政策決定参画プロジェクト



職業体験を
充実させたい！

職業体験を希望する中高生
と企業・団体とをマッチングする
Webサイトの構築を、
2025年度予算に反映

こどもワークショップ



政策企画局
未来の東京



都市整備局
多摩都市モノレール
延伸部のまちづくり



生活文化スポーツ局
東京2025世界陸上

世界陸上の
大会運営に
参加してみたい！

今後の方針

「子供の声を政策に反映」を、都全域に定着

▶ 区市町村への総合的支援により、意見聴取の取組を広域的に促進

東京都こども基本条例の普及啓発

これまでの取組

始動：～2023年度

- 条例ハンドブック
- 条例解説動画
- 中高生海外派遣



普及啓発の強化：2024年度

- 人権教育プログラムへの実践事例掲載
- TEENS SQUARE（国内版）
- 東京こども政策国際会議

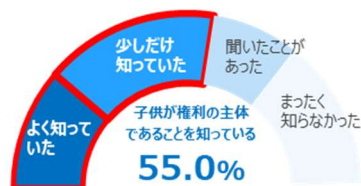
都民への浸透：2025年度

- 出張型条例ワークショップ
- 大人への条例理解促進（出前講座）
- TEENS SQUARE（国際版）



課題

- ✓ 東京都こども基本条例の基本理念である「**子供が権利の主体である**」ことを知っている子供の割合は約半数



（資料）東京都子供政策連携室「とうきょう こども アンケート」2025年調査の速報値を基に作成

今後の強化の方向

普及啓発を**深化**させ、
東京都こども基本条例の基本理念を着実に**都民へ浸透**

子供とつながる情報プラットフォーム

これまでの取組

東京都こどもホームページ



- ・東京に魅力を感じ、都政に興味・関心を持つことができる情報プラットフォーム
- ・子供たちの声を基に**アップデート**
- ・公立学校一人1台端末との接続を推進 など

Next

中高生Webサイト（仮称）

- ・中高生と一緒に「都政への玄関口」のサイトを構築

コンセプト

- 【**学び**】AIを活用した学習
- 【**つながり**】都政の情報や相談窓口とつながる
- 【**情報発信**】中高生目線で自ら情報を発信

本年6月
中高生制作メンバー
ワークショップ開始



2024 累計年間閲覧数 **1億PV突破**

今後の強化の方向

都内**全ての**子供たち一人ひとりに
寄り添ったサービスを提供

- ・子供たちの「**もっと知りたい**」という知的好奇心を満たす**コンテンツ**の充実強化
- ・子供たちの**不安や悩みに寄り添う**
- ・子供たちにとっての「**都政への玄関口**」として**各局等HPとの接続を強化**

既存の枠組みでは困難な課題の解決に向けて、組織横断で対応

これまでのリーディングプロジェクトの主な取組

✓ 国や他自治体に先駆けて**子供目線に立った様々な政策を実践**

✓ 乳幼児期の子育ち

幼保共通
とうきょう すくわくプログラム



都内全域で展開

2023 ベータ版

14園で実践

2024 全域展開

約1,600園で実践

2025

実践園拡大2,750園

✓ 子育てのつながり創出

子供や保護者が気軽にチャットで相談
“ギョツとチャット”

2025年1月先行稼働
【累計相談件数】
2,425件



2025年6月末時点

✓ ユースヘルスケア

思春期のヘルスケア情報の発信

専用HPを2023年度開設
【累計PV数】
約108万PV

2025年6月末時点



✓ 「遊び」の推進

子供の意見を反映した遊び場づくり
～2025年度 22自治体採択



✓ 子供を事故から守る環境づくり

子供の事故情報を
一元的に集約した
オープンデータベース
2025年3月開設



✓ ヤングケアラーを支える

ヤングケアラーの普及啓発

専用HPを2023年度開設
ヤングケアラーのリアルボイス、
ドキュメンタリー動画など

ヤングケアラーのひろば



✓ 学齢期の子育ち

フリースクール等への支援
2024年度 補助制度創設
(利用者支援交付決定 3,154件)

✓ 日本語を母語としない子供を支援
多文化キッズサロンの設置促進
2023年度 補助制度創設

✓ 学校の居心地向上

～学校風土を改善、子供が直面する問題の発生を未然に防ぐ～
学校の居心地向上検証プロジェクト

取り組む高校・中学校数を拡大

2024 スキーム
構築

2校で実践

2025

9校で実践

リーディングプロジェクトの今後の方向性

今後の方向性

- ・ これまでの取組により、着実な実施段階に至ったプロジェクトを再構築
- ・ 新たに直面する課題に対しては、新規のプロジェクトを組成

<これまでのリーディングプロジェクト>

乳幼児期の子育ち

学齢期の子育ち

学校の居心地向上

子育てのつながり創出

日本語を母語としない子供を支援

ヤングケアラーを支える

ユースヘルスケア

子供の未来を育む「体験活動」の推進

子供の笑顔につながる「遊び」の推進

子供を事故から守る環境づくり

<今後のリーディングプロジェクト>

乳幼児期の子育ち

学齢期の子育ち

学校の居心地向上

再構築

育ちを支える「つながり」の創出

再構築

子供の未来を育む「体験活動・遊び」の推進

子供を事故から守る環境づくり

新たなリーディングプロジェクト
想定テーマ

新規

思春期の「メンタルヘルス」増進

新規

多様な「子供の居場所」創出

新規

グローバルな感覚を育む機会の創出

組織横断で取り組む「リーディングプロジェクト」の政策強化の方向

乳幼児期の子育ち

- 乳幼児の「伸びる・育つ」等を応援する幼保共通のプログラム「とうきょう すくわくプログラム」を都内全域展開



政策強化の方向

全域展開に向けた取組を推進、実践における更なる質の向上に向けた支援を展開

- CEDEPと連携し、子供たちの変化等を分析・検証
- 「すくわくナビゲーター園制度」により、園の活動充実への助言等を実施
- 日常の幼児教育・保育での探究活動の実践の定着を見据えた取組を実施

育ちを支える「つながり」の創出

- 子供や子育て家庭の不安や悩み、困難に対して、相談・支援に関する取組を総合的に推進

“ギュッとチャット”（子供や保護者が気軽にチャットで相談）
ファミリー・アテンダント（訪問型で子育て家庭をサポート）
ヤングケアラーへの支援
思春期特有の健康上の悩みの相談窓口の運営
日本語を母語としない子供へのサポート 等



政策強化の方向

子供や子育て家庭に寄り添い、相談しやすい環境づくりや重層的な支援を展開

- ギュッとチャットを相談支援の中核的な役割を担う窓口として、各局相談窓口との連携を強化
- 様々な不安や悩み、困難を重層的に支援

学齢期の子育ち

- 学校生活になじめない子供の学び・居場所の選択肢を多様化

政策強化の方向

様々な不登校対策を多面的に展開

- 学校と子供をつなぎ、一人ひとりの状況に応じた支援を実施
- 不登校児童生徒の低年齢化への対応に向けて重層的に対策を展開
- 保護者同士の交流や相談の場の提供等により、保護者への支援を充実



学校の居心地向上

- 学校風土を改善し、子供が直面する様々な問題の発生を未然に防ぐ仕組みを構築

政策強化の方向

高校・中学校での取組を推進、小学校での取組を実践フェーズへ

- 教育委員会と連携し、居心地向上の取組を推進
- 東京都医学総合研究所の知見を活用し、取組の有効性を科学的に検証
- 2025年度開発予定の「小学生向け居心地調査」を活用し、小学校で取組を実践

居心地の向上



子供の未来を育む「体験活動・遊び」の推進

- 学校内外における様々な体験機会、地域の特色を生かした遊びの機会を創出

政策強化の方向

全ての子供が多様な体験にチャレンジできる環境づくりを推進

- 子供の声を反映した体験活動や遊びの機会の創出等に取り組む区市町村を強力にサポート
- 中高生のニーズに応じたリアルな職業体験機会を提供



子供を事故から守る環境づくり

- 「防げる事故」を確実に防ぎ、子供が安心してチャレンジできる社会を実現

政策強化の方向

産官学連携による予防策の開発や戦略的な情報発信等により
子供の事故が起きにくい環境づくりを推進

- 産学連携による調査・研究や安全・安心な製品開発等を促進
- エビデンス・ベースの予防策を取りまとめ、戦略的に発信



思春期の「メンタルヘルス」増進

- 思春期のメンタルヘルスが世界的にも深刻な課題となる中、未来を担う子供たちの誰もが将来に希望を抱くことのできる社会の実現に向け、メンタルヘルス対策を強化

○ 思春期のメンタルヘルスは世界的にも深刻な課題

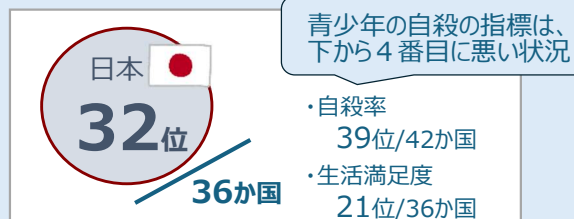
WHO（2024年10月掲載記事）

- 世界的には10歳～19歳の7人に1人が精神疾患を経験
- 自殺は、15歳～29歳の死因の第3位
- 思春期のメンタルヘルス状態に対処しないと、その影響は成人期まで及び、身体的及び精神的健康が損なわれ、成人として充実した生活を送る機会が制限される

（資料）World Health Organization Webサイト「Mental health of adolescents」を基に作成

○ 世界の中でも日本の青少年の自殺率は高い

子供の精神的幸福度



（資料）UNICEF「Child Well-Being in an Unpredictable World Innocenti Report Card 19」を基に作成

10歳～19歳の自殺による死亡率



※死亡率は、人口10万人当たりの死亡数

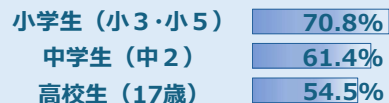
（資料）厚生労働省「令和6年度自殺対策白書」を基に作成

○ 思春期のメンタルヘルス対策の重要性が増している

子供の幸福度

学年が上がるにつれて、幸福度は低下傾向

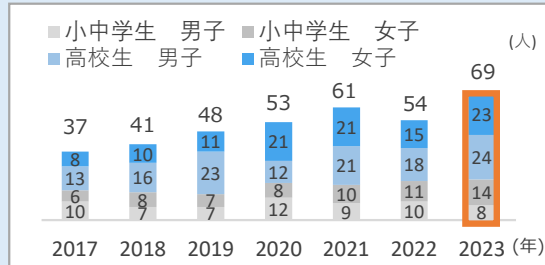
今の自分は幸せか



（資料）東京都子供政策推進室「とうきょうこどもアンケート」2025年調査の速報値を基に作成

自殺者数の推移

東京都



（資料）厚生労働省自殺統計原票データ特別集計を基に作成

○ 思春期等のメンタルヘルスの問題は、成人期にも影響

メンタルヘルスに関する研究事例

（オーストラリア）

- 周産期に抑うつ（うつ症状）を経験する妊婦の多く（85%）は、既に妊娠前の思春期や成人期早期にメンタルヘルスの問題を経験
- 妊娠前の思春期や成人期早期にメンタルヘルス問題を抱えていた女子は、そうでない女子に比べ8.36倍も周産期にうつ症状を経験しやすい

→妊娠前の思春期からのメンタルヘルス支援や予防が重要

（資料）医学誌「The Lancet」（Volume 386（2015））掲載論文「Prediction of perinatal depression from adolescence and before conception (VIHCS): 20-year prospective cohort study」(Prof George C Patton MD) を基に作成

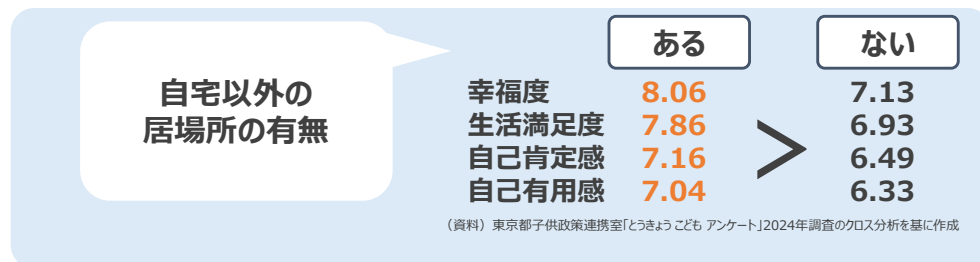
政策強化の方向

- ・ 思春期における心身の健康づくりを推進
- ・ 子供の心の不調に関する気づきと見守りを促進
- ・ 子供の日常の過ごし方等を把握し、思春期のメンタルヘルスへの影響等を分析

多様な「子供の居場所」創出

- 子供一人ひとりの置かれている環境に寄り添い、
幸福度や自己肯定感等を高める上で重要な役割を果たす子供の居場所を創出し、子供のウェルビーイングを高めていく

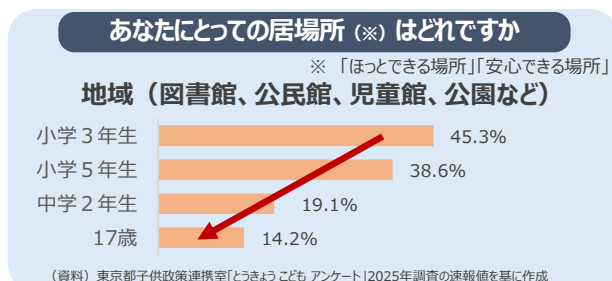
- 自宅以外の居場所がある子供は、幸福度や自己肯定感などが高い傾向



- これまで、都では、子供の多様なニーズを踏まえ、
区市町村等と連携し、子供の居場所を様々な形で創出



- 中高生にとっては地域の居場所が課題



【都内の子供の主な地域の居場所(施設数)】

小学生	児童館(585)、学童クラブ(1,981) など
中高生	青少年教育施設/ユースセンター(28程度) など

- 中高生の居場所に対するニーズは様々

【様々な居場所の中高生の声】

- ・ ここにくるのはお金を使わずに交流できるから(中学生@ユースセンター)
- ・ 児童館は遊ぶものが幼児向けが多く、中学生になったら、つまらなくなった(中学生@児童館)
- ・ 中高生だけの場がない(高校生@プレパーク)
- ・ ここでは子供の意見が取り入れられる。こういう所が広まってほしい(高校生@ユースセンター)

(資料) 東京都子供政策連携室「子供の居場所で聴いた声」(2023年度・2024年度実施分)を基に記載

(左資料) 東京都福祉局「令和5年度東京の児童館実施状況」及び「令和6年度東京の学童クラブ事業実施状況」並びに東京都教育委員会「令和6年度教育行政基礎データ」を基に記載

- 海外では、ユース向けの居場所づくりに取り組む都市も存在

	ユースの居場所(施設数)	15歳～18歳の人口	1施設当たりの中高生世代人数(試算)※
ベルリン	・ユースセンター(413)	約10万人	約240人に1施設
東京	・中高生プログラムのある児童館(351) ・青少年教育施設/ユースセンター(28程度)	約42万人	約1,100人に1施設

※施設利用対象者の範囲にかかわらず、中高生世代の人数で算出 (資料) 東京都福祉局「令和5年度東京の児童館実施状況」及び東京都教育委員会「令和6年度教育行政基礎データ」を基に記載

ユースの放課後の過ごし方(ベルリン)

ベルリンではユース世代の子供たちが、自分たちの意見や関心が反映されたユースセンターで、放課後に芸術やスポーツを自由に楽しんでいる。



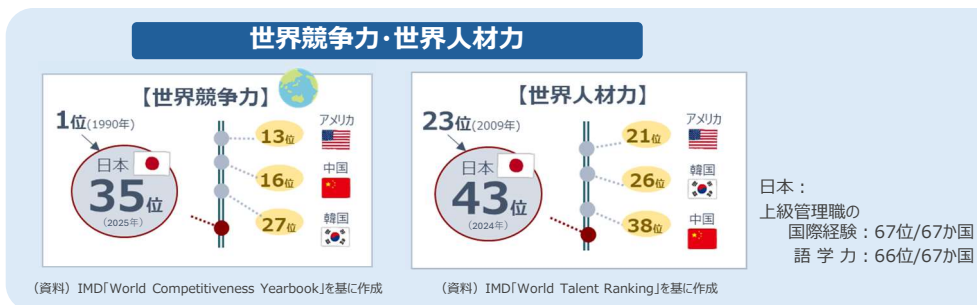
政策強化の方向

- ・ 学齢期をはじめとした
子供の多様なニーズを踏まえた居場所を創出
- ・ 区市町村等と連携し、
中高生の地域における日常的な居場所づくりを強化

グローバルな感覚を育む機会の創出

- グローバル化や技術革新等により将来予測が困難な時代において、子供たちが**将来、世界を舞台にした活躍へとチャレンジ**できるよう、**早くから多文化に親しみ、豊かな国際感覚を育む機会を創出**

- 日本の国際競争力・人材競争力が低下する中、国際経験等が弱いとの指摘

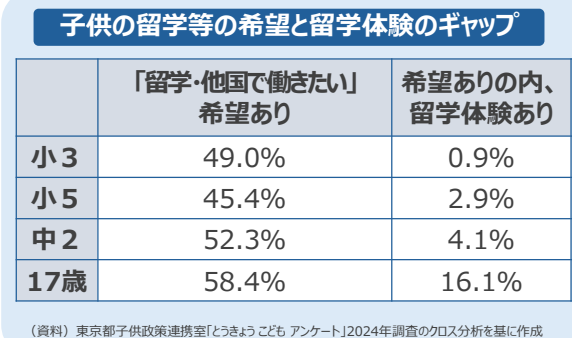
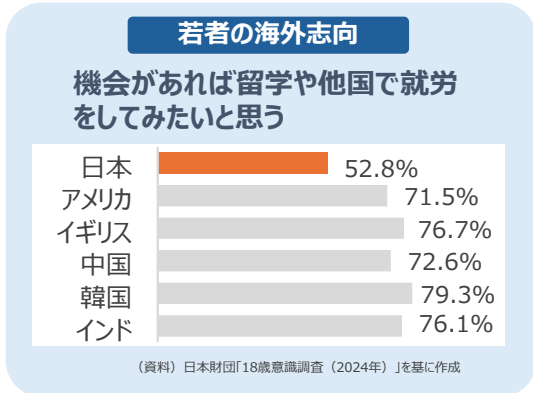


- 幼児期も含め早期からの多様性を体感できる機会や海外での様々な活動が、子供の成長に大きな効果

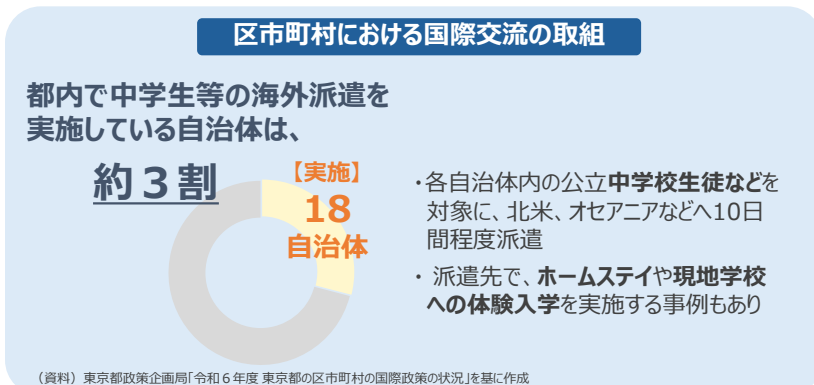
- 留学をはじめ、海外での様々な活動を通じた、**異文化理解**やコンフォートゾーンから抜け出すなどの**国際経験**が、個性の伸長や人格の形成など若者の**多様な成長に極めて大きな教育効果**がある。
- **中学校や高等学校等の早い段階**から、留学や海外研修、対面やオンラインでの国際交流等、**多様な国際経験の機会**に誰もが**アクセス**できると良い。
- 子供や若者たちが文化の壁を作らず海外に親しんでいくためには、**幼児期も含め早期から世界の多様性等を体感できる機会**があることが望ましい。

（資料）文部科学省「Global×Innovation 人材育成フォーラム 最終まとめ」（2025年6月）を基に作成

- 日本の若者の海外志向は他国より低い
- 早期から留学等の希望があるものの、実際に留学体験がある子供は一部



- 国際交流に関する海外派遣の取組は、自治体ごとに差がある



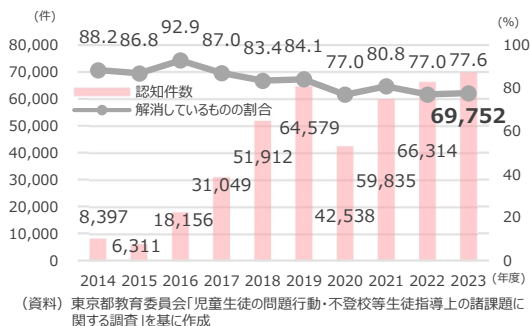
政策強化の方向

学校内外で子供の国際感覚を育む取組を**幼少期**から**高校段階**まで**シームレス**に展開

都庁全体で取り組む子供政策の強化の方向

政策の柱 1 誰一人取り残さない視点から、子供へのサポートを強化

いじめの認知件数と解消しているものの割合



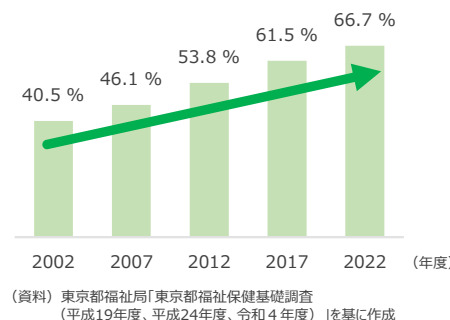
- ✓ 悩みや困難を抱えている子供に対し、**不安や悩みの深刻化の予防・解消や、多面的・継続的な支援が必要**
- ✓ 一人ひとりの状況に応じた支援を充実・強化し、**安全・安心に自分らしく成長できる環境づくりが必要**

政策強化の方向

様々な困難を抱える子供に寄り添い、一人ひとりの状況に応じた支援を一層強化

政策の柱 2 子育て家庭に寄り添い、子供の育ちを支える環境を充実

「両親のいる世帯」に占める「共働き世帯」の割合



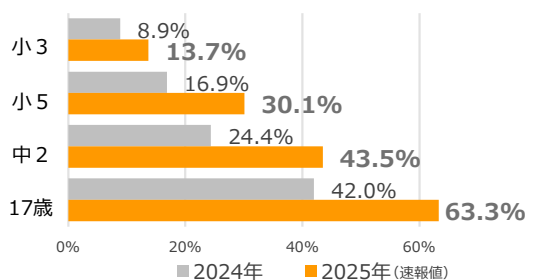
- ✓ 子供が健やかに成長していくため、**多様なニーズを踏まえ、子育て家庭や子供の育ちをサポートしていくことが必要**
- ✓ 働き方の変化による**保護者ニーズの多様化も踏まえ、子供の安全・安心な居場所の充実が必要**

政策強化の方向

子育て家庭のニーズを的確に捉えたサービスの充実など子供の健やかな育ちを支える環境づくりを推進

政策の柱 3 「東京型教育モデル」により、教育の質を向上

生成AIの使用経験



(資料) 東京都子供政策連携室「とうきょう こども アンケート」2025年調査の速報値を基に作成

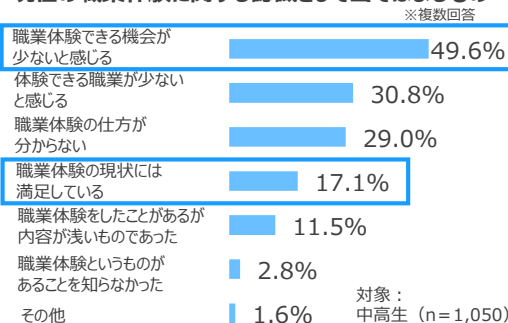
- ✓ 将来予測が困難な時代において、問題解決力や国際感覚、グローバルな発想を持って**世界を舞台に活躍できる力を育むことが一層重要**
- ✓ 障害の有無など**多様な背景を持つ子供たちが共に学び、共に伸びる教育環境が必要**

政策強化の方向

予測が困難な時代において、DXも活用しながら、誰一人取り残さず、一人ひとりの学び・挑戦を支援

政策の柱 4 多様な主体と連携し、子供の笑顔を育むアクションを展開

現在の職業体験に関する認識として当てはまるもの



(資料) 東京都子供政策連携室「中高生政策決定参画プロジェクト 政策提案資料」(2024年10月)を基に作成

- ✓ 様々な体験機会の創出に向け、**多様なステークホルダーとの連携強化を図りながら「こどもスマイルムーブメント」の取組をさらに充実していくことが必要**
- ✓ **育業を支える側が育業当事者を応援できる環境づくりなど、職場全体で育業を後押しする多面的な取組が必要**

政策強化の方向

官民が一体となって、子供の社会参画の機会を創出するなど、社会全体で子供を大切にする気運を醸成